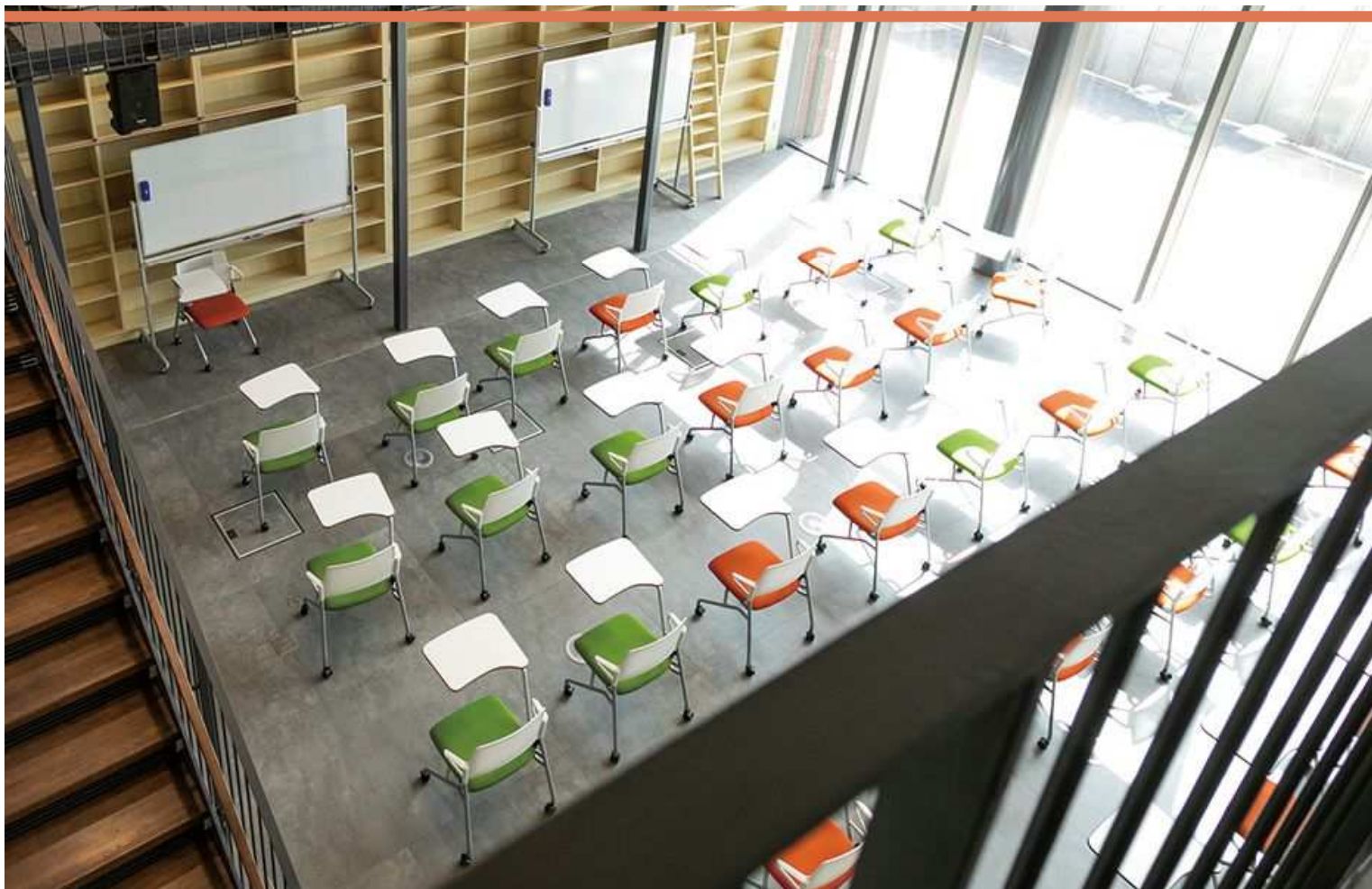


F D 通信

長崎県立大学

2025 年 3 月 第 3 号



特集：2024 年度 FD 研修会

第 1 回 FD 研修会 - P 2 -

実施日
2024 年 7 月 24 日 (水)
～2025 年 3 月 9 日 (日)

到達目標

●様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味のある動画を視聴することで、あるいは他大学の研修会に参加することで、自身の教授法について振り返ることができる。

●自身の教授法についての課題を把握し改善のための方法を考えることができる。

第 2 回 FD 研修会 - P 6 -

実施日
2024 年 9 月 19 日 (木)
10:00～12:00

到達目標

●ゼミ・研究室教育に関わる基本的な知識や全国的な状況を知る。

●ゼミ・研究室教育をより良くするためのヒントを得る。

教養セミナー担当者研修 - P 8 -

<事前研修会>

実施日
2024 年 4 月 1 日 (月)
14:30～16:00

<振り返り研修会>

実施日
2024 年 9 月 19 日 (木)
13:00～14:30

ご挨拶

教育開発センター長 橋本 優花里

三寒四温という言葉の通り、春の陽気を感じる日が続いたかと思えば真冬のような寒さに震える日を経験するなど、日々の天気の変り変わりに振り回される季節になりました。しかし、野山に目をやれば、梅の花が咲き、コブシや桜のつぼみは膨らみ、道端には緑の草花が顔を出しています。この移り変わりを目の当たりにし、また春が来るのだなと気持ちを新たにしているところです。

さて、教育開発センターでは今年も自己研鑽FDと対面によるFD研修会の2回のFDを実施しました。テーマについては、センター会議の中で検討を重ね、昨年度に引き続き「授業内容・方法の改善と向上」となりました。大学全入時代を迎えた現在、学生の多様化は加速する一方です。このような中、今一度自らの授業の内容や方法を継続的に見直すことは重要であるという委員の先生方のご判断でした。実施にあたってはFDご担当のセンター委員の先生方ならびに職員の皆様に多大なお力添えをいただきました。また、教職員の皆様にはFD研修会へ多数ご参加いただきました。この場を借りてお礼申し上げます。

FDのほかにも、センターでは様々な業務に取り組んでまいりました。授業評価アンケート及びその点検報告書の見直し、アンケート等の回収率の向上に向けた検討、教養セミナーテキストの点検・改訂、教養セミナーの事前・事後アンケートの結果分析、学習成果の可視化の仕組みづくりの検討、ALCS学修行動調査及び各種アンケートの実施・分析、学生と教員の座談会の実施など、センター委員の先生方と職員の皆様には各業務の迅速かつ確実な遂行にご尽力いただきました。重ねてお礼申し上げます。詳しくは年度末に発行される活動報告書に記されております。報告書については各業務を分担された先生方がご執筆されていますので、ぜひご一読ください。

また、来年度4月には、今年度も実施しました「教養セミナーの事前研修会」が開催されます。「教養セミナー」という共通のテーマで、学科を超えてお互いの授業法を共有できる機会となっています。ご興味のある方はぜひご参加ください。

「教育開発センター」という名前が示すように、センターが担う業務はいずれも本学の教育の開発・発展に直結する重要なものです。これからもセンター委員の先生方、職員の皆さまと共に本学の教育力向上に努めてまいります。引き続き、みなさまのご理解とご協力をお願いいたします。

2024 年度 第 1 回 FD 研修会

「自己研鑽 FD」

教育開発センター委員 駿河 和仁

看護栄養学部 栄養健康学科

「大学教育の質の保証・向上」を目指す 2024 年度の全学 FD 研修会では、「授業内容・方法の改善と向上」をメインテーマとして 2 回に分けて開催された。第 1 回 FD 研修会は昨年度に引き続き「自己研鑽 FD」として大学教育に関連する動画視聴または他大学が開催する自己研鑽に関する研修会等への参加することにより、自身の教授法についての振り返り、さらに課題を把握し、改善するための方法を考えていただくことを到達目標として実施した。

大学教育に関連する視聴動画については、昨年度は 5 つの機関が公開している約 140 の動画を教育開発センターからグーグルクラスルーム上で提供された。本年度はさらに東京大学が公開している将来教員を目指す大学院生や新任教員を対象としたフューチャーファカルディープログラムの動画（54 動画）や愛媛大学が公開している IR（Institutional Research）関連の動画（10 動画）も加え、既存のものも含わせ計 234 の動画（うち新規追加 112）を提供した（図 1）。また、昨年度の同 FD で課題となっていた実施期間の短さを改善するため、今年度は 2 カ月間延長し（令和 6 年 7 月 24 日から令和 7 年 3 月 9 日）、夏季休業期間中から受講できるようにすることで受講率の向上を図った。その結果、本学専任教員（対象者計 143 名）の受講率は 86%（図 2）、専任教員以外（特任・非常勤教員および一部の本学職員；16 名）も含めると対象者全体で 83%であり、昨年度の 76%（対象者全体）に比べ受講率も増加しており、受講期間の延長や 1、2 月末に行った受講に関するリマインドメール送信の効果が現れているものと推察された。

本年度提供した動画の視聴回数上位を見ると（図 3）、1 位および 2 位は昨年度も上位であった東北大学高度教育・学生支援機構が公開している「専門性開発プログラム（Professional Development Program; PDP）」の動画が占めていた。一方、上位 3 位から 5 位はいずれも新規に追加されたもので、大阪大学全学教育推進機構教育支援部が公開している「講義法」に関する雑談形式の動画や教育機関 DX シンポジウムアーカイブスが公開している生成 AI の活用実態に関するものであった。全提供動画 234 のうち 136 動画が本年度視聴されたが、外国語を担当されるネイティブな教員から英語で実施している教育動画がもっと多くあればうれしいといったご意見や、提供動画数が多いことから視聴する動画を選ぶのが大変だったというご意見もあったことから、今後はキーワードやカテゴリー別に検索できるようにする方法や海外の教育機関の動画なども含めた新たな動画教材やコンテンツの充実もはかっていく必要がある。

本 FD の到達目標（①：自身の教授法について振り返ることができる、②自身の教授法の課題を把握し、改善のための方法を考えることができる）に対しては、「ほぼ達成できた」がそれぞれ 56%、53%、「どちらかといえば達成できた」がそれぞれ 38%。40%でいずれの到達目標に対しても 90%以上が達成できていると判断できる（図 4）。一方、「どちらとも言えない」の回答がいずれも 6%、「達成で

きたとは言えない」の回答が②でのみ1%であったが、これらの回答者の「自身にどのようなフィードバックがあったか」に対する回答では、本FDを受講したことで自他の教授法を再確認できたことや専門教育を考える良い機会となったなど、いずれもポジティブなものであった。また、同質問に対する全体的な回答においては、“生成系AI”に関するものが最も多く、そのほか、“アクティブラーニング”、“クリティカルシンキング（批判的思考）”、“シラバス”、“授業デザイン”、“授業評価（ルーブリックなど）”、“研究倫理”、“コーチング”、“Chat GPT”などのキーワードを含む回答が複数見られ、それぞれ興味・関心のある動画を視聴することで自身の教授法に対してフィードバックされていると感じられた。

その他、本FDに対する感想、意見等の自由回答（「2024年度活動報告書」参照）からは、自身の都合に合わせていつでも自由に選択・視聴でき、多種多様な教育効果の高い動画を視聴することで自身の教授法の振り返りや改善にも効果があると感じているものが多く、今後も学内FD研修のひとつとして継続してほしいとの感想・意見も多くみられた。また、本FDの受講条件に提供した動画の視聴以外に「他大学が開催する自己研鑽（または大学教育）に関する研修会等への参加も含む」とされており、今年度は2名の専任教員が該当していた。ひとつは自身の専門である医療の現場での“コーチング”に関するセミナーで、もうひとつは“初年次教育”のプログラムに関する海外の学会への参加であった。今後もこのような形式の「自己研鑽FD」を全学FDのひとつに継続して取り入れることは有用であると考えられ、本学の教育開発センターとしても情報提供やサポートをさらに充実させていけるようにしたい。

なお、以上の集計結果は3月9日（月）0:10までのものである。

図1. 本年度提供した動画の配信機関、動画所蔵数、視聴回数

動画配信機関	提供動画数	新規追加 動画数	視聴回数
【1】東北大学高度教養教育・学生支援機構	16	0	80
【2】愛媛大学教育企画室	50	5	70
【3】愛媛大学教育企画室*IR関連	10	10	19
【4】公立大学教職員研修システム	44	5	8
【5】教育機関DXシンポジウムアーカイブス	21	11	37
【6】大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部	24	12	71
【7】東京大学フューチャーファカルティー プログラム	69	69	54
計	234	112	

図 2. 学科別専任教員の受講率および動画視聴時間

学科	受講率 (%)	受講者数	未受講者 数	動画視聴時間(分)	
				平均値 (標準偏差)	中央値
経営	93.8	15	1	69 (60)	71
国際経営	81.8	9	2	74 (43)	74
公共政策	77.8	14	4	53 (40)	39
実践経済	93.8	15	1	78 (66)	51
情報セキュリティ	80.0	8	2	101 (85)	76
情報システム	80.0	8	2	40 (27)	36
国際社会	75.0	15	5	67 (47)	52
看護	90.1	20	2	131 (146)	73
栄養健康	95.0	19	1	65 (34)	71
全体	86.0	123	20	79 (78)	61

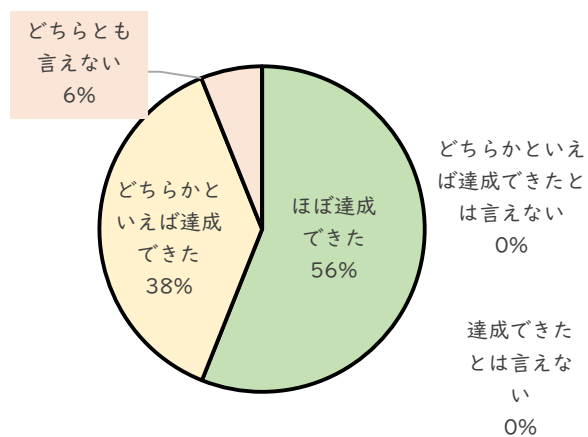
図 3. 動画視聴ランキング（タイトルの色分けは図 1 に示す動画配信機関のものと対応）

順位	視聴回数	時間 (分)	タイトル	2023 年度 順位
1	12	51	授業デザインとシラバス作成	1
		84	学生理解と学生発達	7
2	10	39	コーチング技能を活用した院生指導	4
		77	大学生のクリティカルシンキングの育成	8
		51	Engaging Students in Learning in English-medium Classes	10
3	9	12	講義法 4 『記憶に残りやすく教えるには?』	新規追加
4	8	8	講義法 2 『学生が寝ない授業にするには?』	新規追加
	8	10	講義法 3 『わかりやすい授業にするには?』	新規追加
5	7	14	大学生の生成系 AI 活用実態と今後の展望	新規追加

図4. 到達目標に対する自己評価

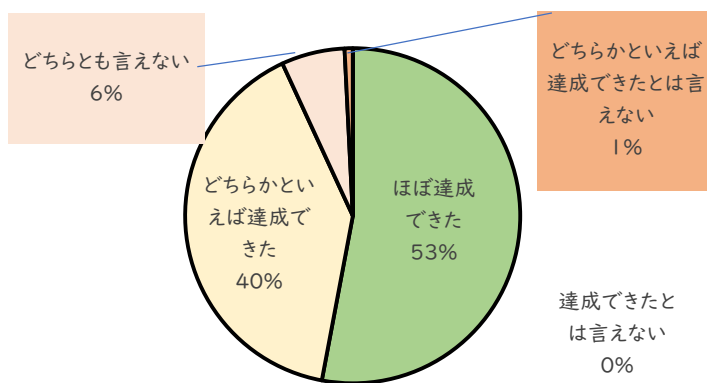
【到達目標1】

様々な自己研鑽に資する動画の中から自分が興味ある動画を視聴することで、あるいは他大学等の研修会に参加することで、自身の教授法について振り返ることができる。



【到達目標2】

自身の教授法についての課題を把握し改善のための方法を考えることができる。



2024年度第2回FD研修会

「学士課程におけるゼミ・研究室教育のあり方を考える」

教育開発センター委員 吉光 正絵
国際社会学部 国際社会学科

2024年度第2回FDは、先生方および事務局の皆様のご協力によって、2024年9月19日に無事に実施の運びとなりました。大変、感謝いたしております。

昨年度同様に、キャンパスごとに対面で講義を受講し、学部学科を越えたグループワークを行うとともに、リアルタイムでキャンパス間をZOOMによってつなぎ、両会場間で円滑にコミュニケーションをとり実施となりました。

受講者数は、教員全体の98%（144名/147名）となりました。

「ゼミ・研究室教育に関わる基本的な知識や全国的な状況を知る。」（【到達目標1】）及び「ゼミ・研究室教育をより良くするためのヒントを得る。」（【到達目標2】）を目指して研修を行いました。

講師は、昨年度に引き続き、『シリーズ 大学の教授法』（玉川大学出版部、2017年）の執筆者から選定し依頼しました。今年度は『研究指導』（玉川大学出版部、2018年）の執筆者のうち「ゼミ教育」を専門に研究されており、『日本のゼミナール教育 —人文・社会科学領域等の学士課程教育における学習共同体の姿（高等教育

シリーズ182）』（玉川大学出版部、2022年）の執筆者でもある西野毅朗先生を講師としてお招きしました。

講演では、ゼミ教育が日本の大学教育に取り入れられてきた経緯とともに、体系的・科学的な運営方法を学びました。西野先生が作成された事前アンケートの回答結果の分析から、本学特有の悩みや問題についても、前向きな検討策が提示されました。

加えて、昨年度同様に、所属学部・学科を越えた少人数でのグループワークが行われました。「グループワークで同学科の先生、他学科の先生のゼミ教育方法や意見をうかがうことができ、自身のゼミ教育方法において改善できる点、参考にできる点などを認識することができ、今後のゼミ教育に取り入れてみたいと感じた。」といった回答のように、そこでの専門領域やバックグラウンドを越えた教員

同士で講義に関する日々の実践や工夫が共有されたことで、より良い学習効果がもたらされていました。

ただし、「教員生活が長いこともあって、本日、ご講義いただいた内容については、大変申し訳ないのですが、特に新しい学びとなることはありませんでした。」といった否定的な意見も、非常に少数ではあったが見られました。グループワークの参加度や議論の盛り上がりにはばらつきがあったことが受講後アンケートへの満足度に大きく影響しているとも考えられます。こうした改善点については、検討を重ねつつ、今後もオンラインと対面での教員間の相互交流の双方の良さを活用しつつ、効果的なFDのプログラムを開発していく必要があるでしょう。

末筆ながら、この度のFDが、本学教職員の教学マネジメント力を進展させ、学生の学習成果向上につながっていくことを願っています。



▲シーボルト会場 西野毅朗先生



▼佐世保校会場

※本FDに対する感想、意見等の自由記述については、

「2024年度活動報告書」参照

到達目標に対する事後評価

【到達目標 1】

ゼミ・研究室教育に関わる基本的な知識や全国的な状況を知る。

144 件の回答



【到達目標 2】

ゼミ・研究室教育をより良くするためのヒントを得る。

144 件の回答



教養セミナー研修会

(事前研修会・振り返り研修会)

教育開発センター委員 吉光 正絵
国際社会学部 国際社会学科

本学の初年次教育を担う画期的なとりくみとして、2024年度は、教養セミナー担当教員向けに、「2024年度 教養セミナー事前研修会」（4月1日開催）が行われた。FD研修会が開催された日の午後（9月19日開催）には、「2024年度 教養セミナー振り返り研修会」が実施された。大変な労力をもって準備・運営にあたられ、参加された先生に置かれましては、大変、感謝いたしております。

「2024年度 教養セミナー事前研修会」の事後アンケート結果によれば、担当教員は、「事前研修会」に参加することで、円滑に「教養セミナー」の授業を進めていくための心理的・技能的な準備を整えることに成功できたことが明らかになっている。

自由記述欄では、「初めて受け持つ授業なのでとても不安でしたが、説明で得た情報プラス、他の先生方とのグループワークに寄って得た情報などとても助かりました」など、グループワークも非常に有意義であった回答があった。これらのことから、「事前研修会」の効果が十分高いといえるだろう。

▼シーボルト校会場



▼佐世保校会場（グループワークの様子）



事前研修会後の事後アンケート結果

3. 本学の教養セミナーの目的について理解することが出来ましたか。

29 件の回答



4. 教養セミナーの進め方について理解することが出来ましたか。

29 件の回答



5. 教養セミナーを担当する上での不安や疑問は解消されましたか。

29 件の回答



FD 研修会が開催された日の午後（9 月 19 日開催）には、「2024 年度 教養セミナー振り返り研修会」が実施された。

事後アンケートによると、「振り返り研修会」に参加することで、「教養セミナー」の不安や疑問が解消されている。「目的」については、大半が「ほぼ理解できた」と回答しているが、「不安や疑問は解消されましたか」との問いには、「どちらともいえない」との回答が6名程度あることが気がかりである。「教養セミナー」をご担当ではない先生方もこの研修に多く参加されていたことも、回答結果に影響しているとも考えられる。ただし、最後の質問の「次年度以降も開催してほしい」との意見が大多数であったため、次年度以降の開催も望まれていることが明らかになった。自由記述欄では、「さまざまな学科のニーズは違っているが、先生方が適宜、テキストを使いこなして頂いていると分かって、心強く感じた。」「色々学科によって進め方が違うことがわかった。」など、学科や専門領域ごとに、共通のテキストをベースに、応用して使いこなしている点について、グループワークで使いこなし方の共有が行われていた点などが確認できた点が、満足度に影響していると考えられる。これらのことから、「事前研修会」の効果が十分高いことが明らかである。

本学の初年次教育の改革に尽力されてきた、準備・運営にあたられている先生方、事務局の皆様のご尽力に深く感謝して本稿をおわりたい。

▼シーボルト校会場



▼佐世保校会場



振り返り研修会後の事後アンケート結果

3. 本日の振り返り研修会の目的について理解することが出来ましたか。

26 件の回答



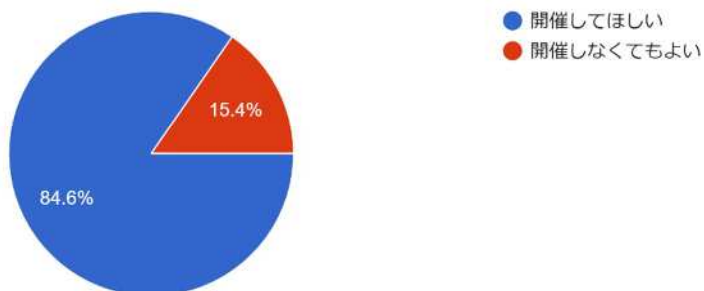
4. 教養セミナーを担当する上での不安や疑問は解消されましたか。

26 件の回答



6. 次年度以降の振り返り会研修会の開催について、ご意見をお聞かせください。

26 件の回答



2024 年度 教育開発センター委員

センター長	橋本 優花里	地域創造学部 教授
副センター長	大澤 裕次	経営学部 教授
	柳田 多聞	国際社会学部 准教授
センター員	四本 雅人	経営学部 准教授
	大久保 文博	経営学部 講師
	前田 竜孝	地域創造学部 講師
	芳賀 普隆	地域創造学部 准教授
	吉光 正絵	国際社会学部 教授
	藤沢 望	情報システム学部 講師
	齋藤 正也	情報システム学部 准教授
	高比良 祥子	看護栄養学部 教授
	駿河 和仁	看護栄養学部 准教授
	前田 士	佐世保校学生支援課長
	田口 利通	シーボルト校学生支援課長



編集後記

本年度の通信は、全 2 回の FD 研修会及び、今年度初めて実施した教養セミナーの事前・振り返り研修会についてお届けしました。本通信で多くの情報が共有され、今後の FD 活動がより充実したものになることを願います。（編集担当：両校事務局）

長崎県立大学 FD 通信 第 3 号（発行日 2025 年 3 月 31 日）

※FD 通信へのご意見ご感想をお待ちしております。

教育開発センター：edu@sun.ac.jp